大きな蝙蝠傘

竹久夢二

青空文庫

それはたいそう大きな蝙蝠傘でした。

幹子(みきこ)は、この頃田舎(ごろいなか)の方から新しくこちらの学校へ入ってきた新入生でした。髪の形も着物も、東京の少女に較(くら)べると、かなり田舎染みて見えました。けれど、幹子はそんな事を少しも気にかけないで、学科の勉強とか運動とか、つまり、少女のすべきことだけをやってのけると言った質(たち)の少女でした。たとえば青い空に葉をさしのべ、太陽の方へ向いてぐんぐん育ってゆく若木のようにのんびりした少女でした。

それにしても、幹子が毎日学校へ持ってくる蝙蝠傘は非常に大きなもので、忽(たちま)ち学校中の評判になりました。

どこの級にも、頓智(とんち)があってたいへん口が軽く、気の利いたことを言っては皆を笑わせることの好きな愚(おろか)な生徒が一人や二人はあるものです。幹子の級にも、時子(ときこ)と朝子(あさこ)という口のわるい生徒がありました。

ある日、幹子(みきこ)は学校へゆく途中で、この口のわるい連中に出会いました。むろんこの時、幹子は例の蝙蝠傘(こうもりがさ)を持っていたので、忽ち(たちま)それが冷笑の的になりました。

「あら何処(どこ)の紳士かと思ったら、幹子さんだったわ、幹子さんお早う」

時子(ときこ)が言った。なるほど幹子の蝙蝠傘は、黒い毛繻子張(けじゅすばり)で柄の太い大きなものだから、どう見ても、祖父様(おじいさん)の古いのをさした

としか見えませんでした。事実またそうであったかもしれません。この場合「何処の紳士かと思ったら」というのは、ほんとに適評だったので、皆はどっと笑いくずれました。

幹子も一緒になって笑いながら「お早う」と挨拶(あいさつ)して、つまらないお友達にかまってはいられないと言ったように、さっさとそこを通りぬけて、まっすぐに学校の方へ歩いた。

「あのくらい蝙蝠傘が大きかったら日にやけないで好(い)いわね」

「ええ、だから幹子さんは、お色が白いわよ」

そう言って冷笑しているのも幹子の耳へ這入(はい)った。けれど幹子は何を言われても平気でいた。

「でも幹子さんの田舎(いなか)じゃあれでたいへんハイカラなのかも知れ

ないわ」

「そうね。私はこう思うの、幹子さんのお父様はきっと薬屋さんに違いないわ。だから幹子さんをいまに薬売（くすりうり）にするんだわ。ほら、よく薬売があんな大きな蝙蝠傘をさして来るでしょう。

「本家、讃岐（さぬき）は高松（たかまつ）千金丹（せんきんたん）……つて歌って来るじゃないの」

そう言って時子は、面白く節をつけて歌って見せた。

「そうよ、そうよ」

「きっとそうだわ」

と口口に言うのでした。

この時、幹子は静かに気にもかけないような風で振返りながら、

「私が薬屋になったら、好（よ）い薬を売ってあげますから、安心して

いらっしゃいな」

幹子は、笑いながらそう言って、すたすたと行ってしまった。

そう言われると、口のわるい連中も、さすがに何も言えないで黙っていた。

それから四五日してから学校の授業中、俄(にわか)に雨が降りだして、授業の終る頃(ころ)には流れるように降ってきた。

今こそ、この冷笑の種になった大きな蝙蝠傘が役にたつ時が来た。

幹子は、時子や朝子(あさこ)が、小さな美しい蝙蝠傘を持てあましているのを見かねて、

「皆様この中へ這入っていらっしゃいな、大きいからみんな這入

れてよ」

三人は仲よく、大きなハイカラな蝙蝠傘のお蔭(かげ)で、少しも雨にぬれないで家(うち)へ帰ることが出来たのでした。

青空文庫情報

底本：「童話集　春」小学館文庫、小学館
　　2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行
底本の親本：「童話　春」研究社
　　1926（大正15）年12月
入力：noir
校正：noriko saito
2006年7月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www

w.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

大きな蝙蝠傘

竹久夢二

２０２０年　７月１３日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/